

氏名（本籍）	大町 成人（岡山県）
学位の種類	博士（鍼灸学）
学位記番号	鍼博乙第21号
学位授与の日付	令和6年3月12日
学位授与の要件	大学院学則第36条第2項および学位規程第5条第2項該当
学位論文題目	中殿筋への鍼施術がランニング動作に及ぼす影響
論文審査委員	（主査）伊藤 和憲 （副査）林 知也 （副査）角谷 英治

論文内容の要旨

【目的】

ランニング時の骨盤の安定に寄与する中殿筋に対して鍼施術を行い、股関節の可動域変化を三次元動作解析にて検討した。

【対象】

対象は大学陸上部員の健常な男子学生とし、鍼介入群・コントロール群それぞれ8名の計16名を無作為に群分けした。各群それぞれ、トレッドミル上を15 km/hで走行後、筋緊張側の中殿筋中央筋緊張部に鍼施術を行い、再び走行・測定した。計測は15 km/hに達した10秒後より10秒間とした。解析方法は、三次元動作解析装置から得た、ランニング周期・サポート期の、股関節屈曲・伸展角度変化量及び内転・外転角度変化量とした。統計処理は、群間比較はマンホイットニーのU検定を、群内比較はウィルコクソンの符号付き順位検定を行った上、効果量を求めた。

【結果】

群内比較の介入群にて、非介入側の股関節屈曲・伸展角度変化量のサポート前期において有意差が認められ（ $p=0.04$ 効果量 0.7）、介入側の股関節屈曲・伸展角度変化量のサポート前期にて、大きい効果量を得た（効果量 0.5）。

【考察】

今回の可動域変化量は、鍼施術により中殿筋の筋緊張が緩和し、股関節の円滑な動きから有意差が生じたのではないかと推察された。

論文審査の結果の要旨

本論文は、ランナーの中殿筋に対する影響について、その機序を以下のような流れで検討したものである。

【目的】

ランニング時の骨盤の安定に寄与する中臀筋に対して鍼施術を行い、股関節の可動域変化を三次元動作解析にて検討した。

【対象】

対象は大学陸上競技部員の健常な男子学生とし、鍼介入群・コントロール群それぞれ8名の計16名を無作為に群分けした。各群それぞれ、トレッドミル上を15 km/hで走行後、筋緊張側の中殿筋中央筋緊張部に鍼施術を行い、再び走行・測定した。計測は15 km/hに達した10秒後より10秒間とした。解析方法は、三次元動作解析装置から得た、ランニング周期・サポート期の、股関節屈曲・伸展角度及び内転・外転角度とした。統計処理は、群間比較はマンホイットニーのU検定を、群内比較はウィルコクソンの符号付き順位検定を行った上、それぞれの効果量を求めた。

【結果】

検定の結果、群内比較の介入群にて、非介入側の股関節屈曲・伸展角度のサポート前期において有意差が認められ ($p=0.04$ 効果量 0.7)、介入側の股関節屈曲・伸展角度のサポート前期にて、大きい効果量を得た (効果量 0.5)。

【考察】

今回の可動域変化量は、鍼施術により中殿筋の筋緊張が緩和し股関節の円滑な動きから有意差が生じたのではないかと推察された。

以上の結果から、本論文は本学大学院博士課程の学位を授与するに値するものと認める。